発行２０２１年４月１日

ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

４ 月 第２３０号

奈良・人と自然の会

＜コナラ・クヌギの苗床への播種。育てドングリ、よみがえれ里山林！＞

Contents

ホームページでは、カラーで見ることができます

URL http://www.naranature.com

壮春力歩	1	やさしい病害虫講座	7
Monthly Repo ならやま	2	Galleryならやま	8
里山の今	3	ならやまプロジェクト	9
ペタキン池の歩み①	4	図録表紙デザイン決定	10
私のキノコワールド	5	奈良学クイズ・行事案内	
字遊字感	6	幹事会報告・編集後記	11

壮春力歩　Withコロナに思う

会長　鈴木 末一

音もたてずにやってきた新型コロナウイルス。知らぬ間に、変異種も水際対策をかわし、上陸していた。切り札のワクチン入手、配布、接種の方法に慌ただしい人間を見透かすかのようだ。

第１波、第２波、第３波と続き、はや１年と２か月が過ぎた。根絶はできない。普段の風邪ひきのように弱いウイルスに変化するのを待つというのが研究者の結論のようだ。それまでは闘いが続く。

油断大敵

闘いの経過を振り返ってみた。最初に罹患したＡ氏、Ｂ氏、Ｃ氏は発祥の地、中国・武漢への渡航歴はない。外国人ツアー客との接触があり、Ａ氏とＢ氏、Ａ氏とＣ氏は業務で会話があった。感染源は同定できないが、同一空間を共有した「人から人の感染」と推測された。

「MERS や SARS より重症化しない」という安易な見立てが一瞬、世間を安心させ、ウイルスに隙を与えた。事態は悪化の一途をたどる。研究者の声にしっかり耳を傾ける大事な時期だった。ノーベル生理学・医学賞の山中伸弥・京大教授は早くから口酸っぱく言っていた。「ウイルスに油断は一番いけない。１年で終わるなんて甘く考えないように」。

子供たちの頑張り

「全国一斉臨時休業措置（昨年２月 27 日）、７都府県に緊急事態宣言（同４月７日）、学校の休校は５月末まで延長。日常生活は 180 度の転換を求められた。在宅勤務のテレワーク、子供たちも大変だった。分散登校、オンライン授業、学校行事の制限」。

これが子供たちの自主性に刺激を与えたのはいい意味で皮肉な結果だった。子供たちは多種多様な課題に直面した。そこに創意工夫が生まれたのだ。例えば体育大会。全校児童が相集うのではなく、児童委員会が中心になり学年別に行う。タイトルは「〇〇小学校創立 30 周年記念大会　秋のオリンピック」。威勢よく掲げる。

授業はコロナ禍で２か月遅れで始まった。「体調を崩さないようにね」「明るく一生懸命に」と、お互いに声を掛け合っていた。行事も例年とは違うメモリアルな物になったようだ。子供たちが困難にもめげず、素直な発想力を随所に発揮していることに拍手を送りたい。

基本を大切に

いよいよワクチン接種が始まった。その効果に大いに期待したい。だが、山中教授が言うように、気を緩めてはいけない。飛沫防止対策、接触感染対策など最も基本的な生活スタンスを忘れてはならない。

不要不急とは

話は変わり、本会の１年を振り返る。まず気になったのは、言葉の解釈の難しさだ。例えば「不要不急」「活動自粛」。前者については、会の通常活動が不要不急かどうか。活動を完全に休止すれば、里山林がどのようになるかは自明の理だ。

議論百出とまではいかなくとも、WITH コロナの対処方法について話し合いを深めることが出来たと思っている。不十分なことがあったとすれば、それはどのようなことで、何に起因していることなのかと、お互いに理解し合い、よりよき状態に一歩ずつ前進できるようにしていくことが大切だと学んだ。

これからも試行錯誤

会議や会合がオンライン化されてきた。IT の進展に伴い、デジタル化への適応力のレベルアップも求められている。これからも試行錯誤の日が続くだろう。

Monthly Repo.　ならやま

徳地 恵男

２月 25 日（木）　活動　晴れ　80 名

ならやまの梅林はほぼ満開を迎える。図録表紙デザイン決定の報告がある。協働活動で約 30 名がシイタケ菌打ち作業に入る。一日かけて 260 本を仕上げる。エコ G はジャガイモの種イモ等春野菜栽培の準備をする。景観 G はのり面の竹林整備をほぼ終える。ビオ班はドジョウ池の補修、花班はナデシコの霜よけをとり除草をする。パト G は観察路の点検、メンテ班は展望広場の土入れをして作業を終了する。果樹 G はチッパー機を使い雑木の整理をやっと完了する。

３月４日（木）　活動　晴れ　86 名

近大生　３名

近隣府県の緊急事態宣言が解除され参加者は 80 名を超える。朝の会の後、新しく整備された展望台に集まりお披露目がある。ならやま活動の全体を見渡すことのできる新たな場所ができた。午前中の協働活動では東池から流れる水路とサイクリングロード側溝をきれいにする。U 字溝は土砂で埋もれていたが、これで水の流れがよくなるだろう。午後からは各グループに分かれて活動する。ビオ班では近大生によりバラタナゴの再放流が行われる。新年度の会費の集金が始まる。

３月 11 日（木）　活動　晴れ　82 名

おだやかな春の日和、ユキヤナギ、ジンチョウゲの花が咲く。里山 G は学びの森でコナラ苗木の植樹、クヌギ苗床をつくってドングリを植える。ユート班は赤松の森を整備、エコ G はたくさんのジャガイモの植え付けをし、新しい試みとしてゴボウ栽培床を仕上げる。景観 G は伐採竹を粉砕してきれいに片づける。ビオ班は水路の泥上げと補修を行う。花班は皇帝ダリア花壇を整備、ヤグルマソウを植え付ける。パト G は観察路の丸太階段を補修する。果樹 G はチッパー機で処理できなかった幹、枝の処理を行う。

３月 18 日（木）　活動　　晴れ　82 名

ならやまの桜の開花宣言。第３駐車場へ入る溝蓋が補修される。グループ毎の打合せをして一日の作業が始まる。里山 G はコナラを玉切りにして薪づくり、エコ G は春野菜の種を蒔き、寒冷紗で覆う。水やりのために東池からポンプで水揚げをする。果樹 G は実りの森の排水路の掘削、鹿侵入防止のネットの補修を行う。放置されていたドラム缶などの鉄くず、農業用の廃品などが一気に片づけられ、アダプト事業で周辺ゴミを収集してきれいなベースキャンプに甦る。

里山グループ

◆ならやまの今後

福田 美伸

先日の里山研修会で講師の神戸大学大学院教授黒田慶子先生が講演の中で話された､「里山の公園化及び松林にすることは良くない」と言う指摘に私は、非常にショックを受けました。

「里山」は、はっきりとした定義はありません。昔は地主から入会権を買い、薪、山菜、きのこ、そして腐葉土を畑や田んぼの肥料に利用して、里山は非常に価値のあるところでした。人が手を入れ、しっかりと整備されておりました。ご存知の通り､昭和 35 年ごろからの特に、燃料革命で薪は不要となり､入会権も消滅状態、里山へ人が入らなくなり、放置されました。私たちが管理する「ならやま」は、20 年前はトレッキング、散歩、バイクのためには笹がうっそうと茂り気味が悪く、誰も通っていませんでした。以前より、きれいになった現在､「ならやま」に自衛隊員も訓練だろうか通るようになりました。

地かきをしていた昔、実生のアカ松林には、松茸が沢山取れていたようです。生駒辺りを描いた江戸時代の絵図は全てが松林になっています。菌根系の植物であるアカ松は、腐葉土があると他の樹木が生え､負けて育ちません。また、放置されたアカ松林には、マツノザイセンチュウによる松ガレが発生し、アカ松の森はコナラの森､ソヨゴの森､笹藪に変ってしまいました。

「ならやま」は全国でも珍しく、奈良の中心から 3～4km のところにあり、誰しもがもっと気軽に入れる、憩いの場所にするべきではないでしょうか？黒田先生の言う「公園化、松林が良くない」を「部分的公園化､部分的アカ松林他」に、さらにすすめ、私たちがリタイアした後、子や孫たちが素晴らしい「ならやま」を整備持続してくれることを、望んでやみません。

エコファームグループ

◆エコファームグループに入りました

足立 勝洋

エコファームグループの活動をいつもよこ目で眺めては、その内、畑を少しいじらせてもらいたいなと思い、今年の年初よりグループに入れてもらいました。

畑いじりは、みなさんも多少は興味をお持ちではないでしょうか。

私もそういう気持ちを持ちながらずっとその機会がありませんでした。中・高校のころ、学園の農園（東京多摩川の堤）で、芋掘りや堆肥作りに汗をかいて以来、そういう機会がなかったのでした。

それで野良仕事には、殆ど無縁の私が、何をできるのかなぁと、期待に胸をふくらませているところです。早速、土と肥料に関する本も購入しました。また、先日も土の pH を測定する pH 計をちょっと使わせて頂き、その畑の弱酸性を確認したのでありました。こんなこともちろん初めての経験です。

さて、昨年令和２年度総会資料で同年度の活動計画を見ると、そのハイライトは、

・有機農法の堅持（エコファームの基本精神）
・各地伝統野菜の更なる積極的導入
・プロジェクトファームとエンジョイファームそれぞれの意味と在り様の意識化

などがありました。新年度では、また新しい計画も作成されるものと思いますが、上記ハイライトは多分引き継がれていくことでしょう。私にとって作物栽培は、新しい領域です。グループの先輩の皆さまには、何かと教えを請いながら、そして、何事も目的意識をもって、課題に挑戦しつつ、楽しいファームライフを送ってみたいと思っております。

そして、他の活動グループといっても、結局いろんなところでつながって、この里山が構成されていますね。皆さまどうかよろしく！

◆ペタキン池の歩み①

羽尻 嵩

12 月 10 日のタナゴ池での調査結果･･･
ニッポンバラタナゴ 39、シマヒレヨシノボリ 45、タガイ２、その他、メダカ、ドジョウ、エビ類、ザリガニや水生昆虫多数。

ザリガニ対策と泥対策に一層の努力をしましたが、昨年度もタガイの育種はできませんでした。今年度は、タガイ専属の池を造り、タガイの育種にこぎ着けるつもりです。

さて、ここからは、「池の整備とその思いを記してほしい」との編集部からの要望があり、私が関わったタナゴ池の造成と、それ以降の池の整備について書くことにします。

ならやまの整備計画が始まったのは、2007 年４月ですが、その時点で、ならやまのベースキャンプには、東池の場所に涸池が１つあるだけでした。その後、2010 年にベースキャンプの西側の湿地を整備して、西池が造られていました。

私はその年の翌年、2011 年に入会し、塩本さんや守口さんなどと共に、西池での整備を手伝っていました。

ところが、10 月になってある日、「近畿大学の北川先生が進めておられる、絶滅危惧種のニッポンバラタナゴ（奈良の方言でペタキンという）の育種に、会として協力することにした」。と阿部会長からの要請が私にありました。責任が伴うことなので迷いましたが、引き受けることにしました。

最初に行ったのは、ペタキン育種の池の見学でした。近大農学部のペタキン育種池の見学は、塩本さんと２人で行きました。その後は、北川先生の案内で、近隣の小学校と中学校、数校のビオトープ池を見学して回りました。

ペタキンの育種には、他にペタキンが産卵するための二枚貝と、二枚貝の幼生が寄生して、栄養分を得て育っていくための、ヨシノボリの存在が必要ですが、いずれの学校の池も、３種が増えていくには不十分なものでした。

次にやったことは新池の設計図作成です。土木作業などの設計図は作ったことはありませんでしたが、造成する土地の広さ・深さなどを測定し、なんとか作りあげました。

杭、ブロック、波板やネットなど資材ですが、５万円以内に収まるようにといわれていましたので、ホームセンターに何度か行き、価格を調べ購入し、車で運びました。また、石類はできるだけならやまで集め、その他の石は、川遊びに行った折に少しいただいて来ました。竹と丸太は、里山 G にお願いし、孟宗竹は 70 本ほど切出していただきました。大仕事でした。

池造りの作業は翌年の１月から始めました。活動日には何人かの協力を得て、それ以外の日は一人で、ほぼ毎日、朝８時過ぎから夕方の４時ごろまでやっていました。粘土質で堅い土を掘り、杭を打ち、波板や竹で横枠を囲い、石や砂やブロックを入れるなどの作業は、肉体的にはきつい作業でしたが、活動日には皆さんの支援があったことと、私自身が合理的作業を心がけたことや、お灸などのお世話にもなったことで、ダメージは全くありませんでした。 精神的には、ならやまの自然を独り占めできて、充実した日々を過ごせました。

気がつけば菜の花が咲き始める季節になり、３月末にはほぼ新池が完成していました。

（5 月号に続く）

私のキノコワールド

高間 祥子

◆「菌類」との出合い

17 年前、シニア自然大学校星組 9 期を修了した。式後の打ち上げで新しい企画（マイスターや自然塾など）を立ち上げようという声が上がる。意欲的な人が多かったのだ。

さて、私は今後どうしようか？心身共にヘトヘトになった 1 年間だった。月 1 回だけなら家族の冷たい視線をかわせるかもしれない。同期が立ち上げる「菌類研究会」しかないか。

これが私と「菌類」の出合いだった。キノコには興味なかったが、木々の間を歩いてキノコを探すのは楽しかった。

◆幻のイカタケ

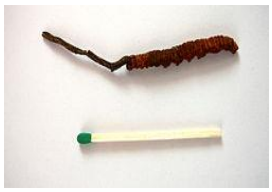
1 年目の堺、大泉緑地の観察会でのこと。休日の家族連れが憩う中で、キツネノロウソクなどを夢中になって探す。そんな時にイカタケと出合った。菌輪（フェアリーリング）を作ってたくさん出ている。変な形の臭いキノコで特にありがたくもなかったが、あれから十数年、どこを探しても見つからず、今や伝説となっている。

◆ベニテングタケに会いたい

「不思議の国のアリス」の絵本に出て来るような、赤地に白い点々のあるカサを持つドクキノコである。白樺林にしか生えない。当然、近隣では見られない。それならと信州合宿に行く。地元の方にとっては、どこにでも出るキノコらしいが、全く見つからない。バスの運転手さんにあちこち回ってもらったあげく、車窓から「見つけた！」の声に歓喜。慌ててバスからか

け降りて、一人は骨折した。キノコだけを見て走り寄り、溝に足を取られて転んで骨折というのは「キノコ好きあるある」だ。

◆冬虫夏草を探して



広島から講師の先生を招いて大山でも合宿をした。冬虫夏草は、土中の昆虫やクモに寄生して地上に顔を出すキノコで、大体とても小さい。そこで、探すには匍匐（ほふく）前進となる。中高年男女の集団がはいずっている姿はかなり怪しいが、やってみるとなかなか楽しく、数ミリのキノコを見つけた時の喜びは半端でない。

◆愛しのカエンタケ

猛毒のキノコである。食べるのはもちろん、触っただけでも死ぬという。近寄って胞子を吸い込んだだけで病気になるとか。ナラ枯れの切り株等から発生する。そして、ナラ枯れが一段落するとなくなってしまう。そう、そろそろ幻のキノコとなってしまうはずである。まだ見たことのない方は、是非、鮮やかな朱色の可愛らしい姿を一目、見ておいていただきたい。

◆そして、ならやまで

観察会を楽しむことだけに徹し、10 年余り。新しく入会するのは勿論、キノコに関心がある人ばかりで、情けないがどんどん追い越されていった。仕事を早期退職してからは、他の観察会にも顔を出すようにしたが、場所や時期が違うと同じ種でも全く見かけが違ってしまうので、まだまだ初心者と変わらない。

だが、ならやまというフィールドを得て、決まった場所を定期的に観察できるのはとても嬉しい。同じパトロール班には、食べられるキノコの達人もおられるし、ユートピアでの植菌も勉強になる。ならやまで学んでレベルアップした姿を見せるためにも、ならやまの活動を続けていきたいと思っている。

字遊字感

日本人のＤＮＡ

岡田 安弘

大阪人は人さまを笑わせるのが上手い。吉本喜劇の影響か、身についていると言っても過言ではない。大阪の新型コロナウイルス感染拡大が止まらない。ならやまの朝礼で新入会員が「大阪から来ました」と自己紹介し笑いを誘う。

大阪府は緊急事態宣言を解除。早くも夜のキタやミナミの賑わいが戻り、ウイルスの活動が再燃する雰囲気を醸している。笑い事では済まなくなるのではないか心配だ。

振り返れば、このウイルスは大型クルーズ船が持ち込み、対応に追われている隙に欧州から流れ込んだ。わずか１年前のことだ。ワクチン接種の展望が開けた途端に変異種が現れ、なかなか出口が見えない。

私ごとを言えば、当初は他人ごとに思っていた。米国で犠牲者が３０万人を超えた当たりで目が覚める。第２次世界大戦の４年間の米国の戦死者（２９・１万人）を１年足らずで上回り、脅威に息を呑む。トランプ前米大統領が風邪程度と見くびったことも、いかに初期対応が肝要か思い知った。

欧州も対応に苦慮、都市封鎖を繰り返す。犠牲者数は英を筆頭に伊、露、仏、スペインが不動のワースト５だった。平時から民間の医療機関がドライブスルーや自宅訪問などで備えるドイツは、感染症対策の優等生と言われる。しかし変異種に手を焼き、スペインを追い越した。

感染の抑え込みで独自の対策に取り組むのはスウェーデン。ウイルスと共存の道を選ぶ。個人の自由を重んじ、経済活動と日常生活を維持。研究者は「国民の多くが免疫を獲得し、感染は抑制された。患者や家族、医療従事者が差別されることもない」と言っていた。成果は見られたが、変異種の登場でロックダウンや国境封鎖を始めざるを得なくなる。

▽

因みに日本の死者は８千人台（３月１９日現在）。対応の速さでドイツに一歩も二歩も遅れながら、感染率、死者数とも桁違いに低い。

京都大学の山中伸弥教授は「ファクターX」と名付けて仮説を挙げている。「清潔好き、ハグや握手、大声の会話はしないなどの国民性が要因ではないか」と言う。同時に「ウイルスは私たちを試している。油断したところから一気に勢いを取り戻す」と警告も忘れない。

▽

日・独は、戦後の復興が類似しており、何かと比較される。イナ・レーベル駐日大使は日本記者クラブで、初期対応を振り返った。その録画を見ると、「専門家が頻繁に会見し警鐘を鳴らし続けた。政治サイドからの影響力行使がなかったことが、国民の信頼を得た」と話している。けだし名言だと思う。

経済支援は「労働の時短制度で、平時から減収の一部を政府が補填してリーマンショックを乗り切った。この経験を生かす」と言う。

▽

欧州事情に詳しいジャーナリストの故・柴田俊治氏は著書「地球の味わい」で、日・独を対比している。「ともに清潔好きで働きもの。物つくりの凝りようも似る。日本人の職人気質とドイツのマイスター（親分）への敬意」と述べたうえで、「違いは計画性の有無ではなかろうか」と記す。

ドイツ人は議論好きだそうだ。問題が起きるたびに検討を加え、あっさり方向転換もする。「最終的には目標に到達し、あとは国も国民も一直線」。手練れの一言が、ドイツの国民性を鮮やかに切り取る。

日本の国民性については、「どちらかと言うと討論べた。我先にではなく横並びになりがちだ。そんなＤＮＡが我々に組み込まれているのではなかろうか」と述べている。

やさしい病害虫講座 41
黒い煤（すす）の製造屋さん

木村 裕

木の葉や枝に黒い煤が着くのは、虫さんと菌さんの協働作業の成果です。両者の関係がうまくいくことが必須条件で、どちらかがさぼると煤の塊はできません。

協働者の一方は、口ばしがセミのように尖っていて、葉や枝から汁を吸う虫さんです。体の中で自分に必要な養分だけを漉しとり、不要になったものはお尻から排出しますが、それはすべて液体で固形物はありません。

虫さんにとっては甘い糖分は不要なようで、すべて？排せつされ、べたべたと粘り気があります。それが下の葉や枝に付着して少し光ります。アリさんがこの排せつ物の糖分を狙ってやってきますが、排出量が多すぎると運びきれずに葉上に残り、すす病菌の出番となります。

やってきた、すす病菌さんは、それを栄養源として繁殖を始めます。堆積した糖分量が多いと煤の層も厚くなります。さらに、その上にゴミや埃がつくので葉はいっそう汚くなります。

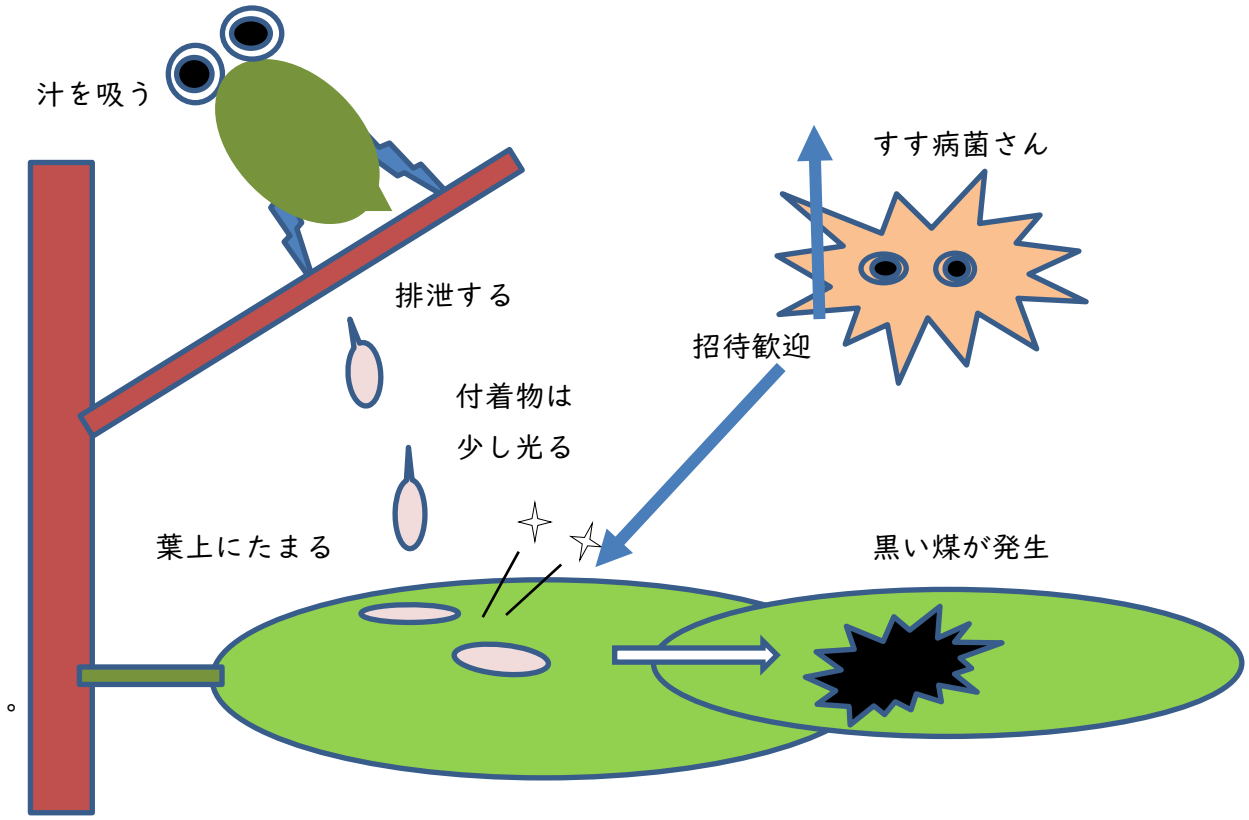
すす病菌さんは植物体には直接の害を与えませんが、煤が葉全体を包み込むと、太陽光が遮ぎられて光合成が妨げられます。

アリさんやすす病菌さんと仲の良い虫さんは、アブラムシさん、カイガラムシさん、コナジラミさんです。ときにはグンバイムシさんも。

コナジラミさんは小さくて、扁平で葉にピタリとくっつき、色も目立たないので発見にはかなりの経験が要ります。昆虫講座のコナジラミ類の号をみてください。

すす病対策としてはこれらの虫さんを退治することです。カイガラムシさんやコナジラミさんは種類よって防除適期が決まっていますので、防除はちょっと難しいかも。さらに皆さんがよく使うスミチオンやマラソンでの散布では効果は期待できません。

ころころ糞を排出する毛虫や葉巻虫、アオムシさんたちは、煤を誘発しません。



。

Gallery ならやま

▲油絵　紫陽花　永井 幸次

▲陶芸　バラの蓋物　桜木 晴代

▲竹細工　シーサー　鈴木 末一

▲園芸　浮かれ獅子　坂東 久平

▲写真　ハシビロガモの三角関係

千載 輝重

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

4 月の活動について

4 月　1 日：　新入会員歓迎会、協働活動日（里山林樹木調査）

4 月 22 日：　刈払機安全講習会

4 月 29 日：　備品点検日

4 月の各グループ活動予定

グループ	活 動 予 定
里　山	**里山林樹木調査、里山林内チッパー処理、**部分皆伐地区整備、 ユート:アカマツの森整備
エコファーム	**茄子、唐辛子、サトイモ、カボチャ植え付け、**サツマイモ、枝豆畑準備 葉物野菜定植、**水田整備**
景　観	**整備:タケノコの収穫（新入会員参加）、**ミツバチ巣箱周辺、BC 周辺、彩りの森整備 **ビオ:池・水路整備、**水生生物調査 **花:百日草・マリーゴールド播種、秋明菊花壇・山野草園整備、矢車草施肥**
パトロール	1～4 コースパトロール／観察路・丸太階段整備／**春の植物観察** メンテ:水路整備残作業
果　樹	**鹿よけネット再構築、B 地区斜面竹柵設置、**グミ・ブルーベリーネット張り、杉皮むき

<特記事項>

① 里山林の樹木調査を協働活動として実施し、里山林への関心を高める。（新入会員参加）

② ならやま水系の源となる**東池の改修方針を検討するために、排水し現状を確認する。**

③ **学びの森の再整備**に向けて、モニュメントの設置を含めてデザイン案を検討する。

④ **来年度予算要求額**について、現在の活動を何とか維持できる費用を前提として見直しを実施。
個人が管理している備品についても調査確認し、備品・工具類などの購入についてより一層適正化を図る。

⑤ **味噌汁の提供は 3 月末で一旦終了**し、10 月から再開する。

活動日：　毎週木曜日　9:00～15:00

前日水曜日の 19 時現在の気象庁予報（NHKTV 奈良　19 時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率 60%以上の場合は翌金曜日、木曜日も同予報であれば中止

図録・表紙デザイン決定
最優秀賞に中野里々花さん

図録「見つけよう自然のなかまーならやまの昆虫と植物たちー」の続編「見つけよう自然のなかまーならやまの木々ー」の表紙デザインが決まりました。

佐保台、佐保川両小学校と会員のお孫さんを対象に公募しました。新型コロナ禍による休校などのしわ寄せを心配しましたが、２１点の作品が集まりました。審査の結果、最優秀賞に佐保台小１年、中野里々花さんの作品が選ばれ、表紙に採用することに決まりました。

沢山の種類の生物が生きている里山林の光景を力強く描いています。表彰状と副賞の図書券は、校長先生から贈呈していただきました。

続編の編集作業は、新型コロナ禍の緊急事態宣言で活動自粛を求められ、ペースダウンをせざるを得なくなりました。しかし、１５０余種の樹木リストのうち半数は原稿執筆を終え、４月から残る木々の執筆を再開します。

出版費用に予定していたトヨタ環境活動国内プロジェクト助成を受けられることが決まり、３月30日にZOOM会議にて助成決定証授与式が開催されました。　　(鈴木末一　記)

奈良学クイズ

写真の狛犬は、ある神社の拝殿入り口の両脇に鎮座し、天明元年の銘が刻まれています。吽形(左)、阿形(右)で、雌雄のしるしが彫られた珍しいものです。

わが国で２番目に古いもので、雄の両頬には穴があり、右頬の穴には緑青（ろくしょう）が詰まっています。銅のヒゲが埋め込まれていた痕（あと）のようです。

問１この狛犬がいる神社の名称をお答えください。

問２この神社の通称名をお答えください。

問３この神社の祭神をお答えください。

【応募方法】

メール nara-suzuki@naranature.com

【締め切り日】令和３年４月４日(必着)

【景品】竹工芸品

５月ならやま活動&行事予告

＊ならやま活動（木）６日：協働活動日

＊自然観察会

17日（月）生駒滝寺周辺

＊奈良・人と自然の会　総会

15日（土）(懇親会は中止)

2021 年３月度幹事会報告

日時：2 月 23 日　16：00～18:00

オンライン開催　参加者：21 名

Ⅰ．会計、総務部より

1．　会員動向：会員数 169 名。前月同数

2．　会計報告：収支報告、資金は窮屈になっている。３月４日より会費納入受付開始

Ⅱ．活動・行事関係

1．　３カ月活動予定

・総会後の懇親会は中止。天平祭不参加。

・刈払機安全講習会：4 月 22 日 9：30～

2．　ならやまプロジェクト関係

・3 月 4 日～5 月末 交通費の支払い
5 月末までに受け取りのない場合は会への寄付とする。

・味噌汁の提供：以前の幹事会打ち合わせ通り 10 月～3 月の間とする。例外として 4 月開催予定の新入会員歓迎会は提供する。

・3 月 25 日 備品点検 これを基に来年度の予算検討を行う。

・水路整備計画案について田中幹事説明。

・学びの森整備計画について千載幹事説明。

Ⅲ．企画、助成関係事業案件

・記念誌編集：3 月活動日に打ち合わせ。

・図録：樹木標本、残り半分の執筆を担当者にお願いしている。

・各助成金の報告書類は概ね準備完了。

Ⅳ．喫緊・提案事項

・各 G の予算要求を集計すると来期の資金収支はかなり厳しい。吟味し予算削減をお願いすることもある。

・歴史文化クラブ 発展的解消について説明あり。同好会として存続も検討中。

Ⅴ．広報、関係

・ネイチャーなら 4 月号編集内容、担当確認

Ⅵ．報告、連絡事項、その他

・月例研修会 4 月 6 日　・自然教室 4 月 5 日

以上

4 月度幹事会は 3 月 30 日(火)15:00～ZOOM

＜ラジオの効用＞

私は、ラジオをよく聞きます。いつでも、どこでも聞け、別の事をしながらでもよく、気軽なところがいいです。ラジオの優れているのは、音楽です。テレビの音楽番組は、流行を追うため同じような出演者です。ラジオは、特に FM ですが、新旧・国内外問わず幅広い音楽が流れます。

次に、ラジオはリスナーが送ったメール等を話題にするため、参加している感覚になる番組が多いですが、テレビはほとんど一方的です。

人間の感覚は、視覚が８割、聴覚が１割と言われています。ラジオは音声しか伝えないので、足りない分は聞く者が、自分の脳で補うことになり能動的です。目は疲れず頭のトレーニングにもなり、一石二鳥です。ラジオは耳でしか情報を受けられないので、丁寧で面白い CM が多いです。

５年前に、ラジコプレミアム会員登録をしました。全国にあるラジオ局の１週間前までの番組を、パソコン、タブレットで聞くことができて、月額 385 円(税込)です。地方色豊かな情報があり、音声はラジオより落ち着いて聞きやすいです。

最後に、ラジオの最大の効用は、災害時に唯一の情報源になる場合です。

発行：奈良・人と自然の会
URL ： http://www.naranature.com
編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：コナラ・クヌギの苗床への播種

ならやまで自生したコナラ・クヌギのドングリを育てて植樹、よみがえれ里山林！！